

今回は、前年度、別の生徒を対象に、発語について ST よりアドバイスを頂いたことをもとに、他の生徒で個に応じた内容に応用し、実践したことを報告する。



【学年】 中学部2年生

【身体面】 肢体不自由。車椅子を自走することができる。車椅子から立って机を支えにして自分の力で学習用の椅子に座わり変えることができる。以前は、左手が利き手であったが、付随運動が起こるため、右手を使う練習をしている。

【転入当時の様子】 発語がなく、挨拶や「はい」や「いいえ」など、文字盤を使って表現していた。学校生活に慣れるにつれ、小さな声が出るようになった。

ロングトーンは、声を安定して長く出し続けること。

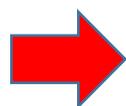
●相談内容

滑舌よく話せるようになるにはどのようなことに気が付いたらよいか？



●アドバイス

- ・背筋を伸ばして姿勢よく座る
- ・たっぷり息を吸い込む
- ・口の周りをタッピングする
- ・口形を意識して話す



●実践

① 正しい姿勢でお腹を意識して複式呼吸の練習



② たっぷり息を吸ってロングトーンの練習



③ ふうせんを膨らませたりペットボトルに息を入れたりする練習



④ 口の周りを軽くタッピングして刺激を与える



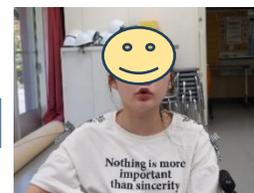
●成果

- ・大きくはっきりとした声で話せるようになった。
- ・人と対話ができるスピードで話せるようになった。
- ・滑舌よく話せるようになったため、相手に話の内容がスムーズに伝わるようになった。
- ・速いテンポの曲が歌えるようになった。



ペットボトルの底には、小さな穴が開いている。

⑤ 口形を意識して発語練習



⑥ 音階に合わせて発声練習



声の大きさを意識して、話したり歌ったりした。

●今後の課題

「か行」「さ行」「ら行」は、速いスピードで話すことが苦手なため、今後も口形や舌の動きを意識させながら「かかかか」「らららら」「るるるる」など、同じ発語を速く言えるような練習や、「ら」のつく音読練習（E X：暗くなったらさようなら）、「か」のつく音読練習（E X：喉がカラカラに渴いてしまった）などの短文を読み上げさせる取組が必要である。

※放課後は、病棟でも ST の訓練を受けている。